



産業の振興、 地域経済の発展

お 小 やけ 宅 とおる 通

(76歳)

住所
秋田市

昭和33年に北光金属工業株式会社を創立して鑄物の生産経営を始め、昭和34年からは秋田市金属工業会の副会長として、更には、昭和46年からは秋田県銑鉄鑄物工業組合理事長として、鑄物業界の振興、発展はもとより、地域経済の発展に多大な貢献をしている。

また、昭和60年には秋田中央高校教育振興会参与に、昭和61年には秋田県機械金属協同組合理事長や秋田大学鉱山学部同窓会秋田支部長などに就任して、産・学・官の連携を推進するとともに、平成5年には秋田大学地区共同研究センター理事や秋田県機械金属材料研究会長に、平成6年には秋田科学技術協議会理事などに就任して、技術者の能力開発や高度技術者の育成に尽力している。



産業教育を通じ人材育成

の 能 と 登 ふみ 文 とし 敏

(74歳)

住所
秋田市

昭和19年から、秋田鉱山専門学校及び秋田大学において教育、研究に従事し、特に電気電子工学科絶縁材料の研究を通して多くの人材育成に貢献した。

また、昭和55年には秋田県自然エネルギー開発協会を組織し、エネルギー問題の啓発と省エネルギーの普及に努めるとともに、大潟村のソーラーカーラリーについては、第1回から組織委員会副委員長としてその成功に尽力した。

更に、昭和56年以降は、(財)エンジニアリング振興協会の秋田分科会長として、雄勝町、仁賀保町、湯沢市及び秋田市の各プロジェクトの調査研究に従事して地域振興に寄与するとともに、昭和59年からは、秋田テクノポリス技術振興研究会議会議長として、県内の工業振興に貢献している。



茶道の普及と人材育成

あ べ こと
安 倍 琴

(74歳)

住所

秋田市

昭和24年に茶道裏千家に入門して以来、長年にわたり秋田市、能代市、本荘市をはじめ県内各地において後進の指導に努め、茶道の普及、振興を図るとともに、茶道を通じた人材育成に大きな功績をあげている。

また、秋田県を訪れる各国の友好都市使節団等に進んで茶席を設けて友好親善に努めるとともに、昭和60年には家元とともにイタリア、バチカンを訪問するなど、国際的な茶道の普及にも尽力している。

更に、昭和54年からは茶道裏千家淡交会秋田支部副幹事長として組織強化に努めるとともに、長年にわたり秋田市文化団体連盟理事や秋田市文化会館運営委員等の役職を務めるなど、茶道を通じて本県芸術文化の振興と地域文化の発展に貢献している。



秋田八丈と 秋田畝織の再生、継承

なめ かわ しん きち
滑 川 農 吉

(74歳)

住所
秋田市

昭和21年に家業である機織業を継承して以来、一貫して秋田の伝統織物の生産と技術の向上に一身を捧げ、9代秋田藩主佐竹義和の殖産政策によって開発された歴史を持ちつつも消滅の危機にあった秋田八丈と秋田畝織を再生させ、秋田の伝統産業を守り育んだ。秋田八丈と秋田畝織は、秋田の代表的な伝統工芸として、昭和55年に秋田県指定無形文化財に指定され、滑川氏は秋田県でただ一人の無形文化財保持者として、地道ながらも着実に伝統工芸保存活動に尽力している。

また、各種講習会の講師として伝統工芸技術の保存、普及に努めているほか、県立博物館の開設に当たっては資料収集委員に委嘱されるなど、秋田県の文化財保護に大きく貢献している。



脳血管疾患の研究

くつ ざわ たか し
沓 沢 尚 之

(72歳)

住所
秋田市

秋田赤十字病院や東北大学医学部在任時から脳卒中医療に取り組み、我が国の脳循環研究のパイオニアとして活躍してきている。

また、昭和43年に秋田県立脳血管研究センターが設立されて以来、同病院長、同所長を歴任し、県民病といわれた脳卒中の医療と研究に多大な貢献をしている。特に、当時タブーとされていた、発症直後の救急搬送と積極治療の有効性を初めて科学的に証明し、現代脳卒中治療の基礎を築くとともに、脳卒中の手術的治療法、脳循環病態の研究、ポジトロンCTの開発などの新しい分野においても指導的な役割を果たし、本県の脳卒中治療の水準を国際的にも評価されるまでに向上させた功績は、誠に大きいものがある。



スポーツの振興

ひろ しま まさ ひ こ
廣 嶋 正 比 古

(72歳)

住所

秋田市

昭和42年から秋田県体育協会の理事や副理事長を務め、平成2年からは副会長として関係機関や関係団体との調整に当たり、全国規模の大会の誘致・開催、組織の充実、選手の強化、指導者の育成などに尽力し、本県スポーツの振興、発展に多大な貢献をしている。

また、秋田県バスケットボール協会の役員兼秋田県ミニバスケットボール連盟会長、顧問として、ミニバスケットボールの普及、振興に努め、その興隆に尽力している。



民俗芸能の普及、発展

わ ら び 座 (代 表 原 由 子)

住所

仙北郡田沢湖町

今年、創立45周年を迎えたわらび座は、年間千ステージを超える民話ミュージカルの全国公演や「秋田ふるさと村」での定期公演を行っている。また、平成5年のアジア国際舞踊フェスティバルの成功に大きな役割を果たすとともに、8回の海外公演を行うなど、国際的にも高く評価されており、本県のみならず日本の芸術文化の振興に大きく貢献している。

更に、昭和37年には「民族芸術研究所」を設立し、全国の民謡15万曲を収集して国内トップレベルの資料研究所となっているほか、近年には、院内銀山における幕末期の医師の日記の解読と分析を行うなど、秋田の文化と歴史を知るうえでの学術的な面においても評価されている。